

紅葉と天候が当たれば素晴らしいです
涸沢・北穂高岳

実施日	2014年10月1日(水)~4日(土)
天候	10/1晴れ・10/2 晴後曇・雨・ 10/3雨・10/4晴
リーダー	涌井 良明
参加者	涌井良明、白石恵美子、石附智江、 渋谷賢寿、渋谷京子、遠井謙策、中 村友子、伊藤久雄、宇野輝代、佐藤 政司、石附恵理子 計11名
費用	列車(新宿起算JR+アルピコ交通) 14,160円 / 3,900円 / 宿泊費 11,800円(山荘+テント) 合計29,860円
タイム	10/1 新宿BT(7:20)上高地BT (12:10~30)明神(13:25~ 40)徳沢(14:25~35)横尾 山荘(15:30) 泊 10/2 横尾山荘(6:25)本谷橋 (7:45~8:00)1950m付近 (8:40~45)涸沢(10:10) ~テント設営 泊 10/3 待機(朝~10時)奥穂登山 道ハノラコース散策(10:00~1 2:00)午後自由行動 泊 10/4 起床(4:30頃)朝食(5:00 頃)撤収作業(6:00頃) テント場発(7:00)涸沢 発(7:15)屏風ノ頭への 尾根(8:30~40)屏風ノ コル(8:50)屏風ノ耳(9: 15~40)屏風ノコル(10: 00~05)1975m付近(11: 20~30)徳沢(12:40~13: 15)上高地BT(14:25)

10/1 上高地BTは10月とあって平日とは言え賑やかだ。明るい声の響く中、ここ数年で最も重いザックを背負って歩くと思うといまひとつ気は重いかも。

今回はメンバーのアプローチ方法も、直通バス・マイカー・列車・1日遅れの夜行とバラバラ。上高地BTでメンバー1人と合流、別に早着していた何人かはBTでは混雑が嫌だったのか？CLグループ到着まで待てず、



先に歩き始めちゃったので、それぞれ別パーティみたい、と感じるのはオイラだけ？か。

さーて出発と思ったら、何と涸沢へのツアー登山に参加していた会員と遭遇(@_@)、言ってくれば、別行動グループとして参加メンバーで段取りできたのに、少しは安く行けたかもよ〜。

ザックは重いものの、今日は横尾へ観光客となって歩き出す。

明神でやっところさ、先着組と合流、梓川畔の秋を感じながら林道歩き。

予定通り3時間かけて横尾山荘へ到着。風呂もあって、食事も旨い旅館仕様の山荘で快適に過ごす。星が綺麗だった。

10/2 今日には昼以降の天気予報は芳しくないが、山荘出発時はまだまだ秋の陽ざしタップリである。

横尾大橋で梓川を渡り、林道から山道となる。殆ど登りらしい傾斜もない小道歩きといった感じがしばらく続く。

やがて屏風岩がチラチラと見え始めるが、横尾谷に沿って気分の良い道を行く、

周囲も徐々に紅葉の美しさも増してくる。我々もこのルートの休憩所、本谷橋で一息入れるが快晴と朝のすがすがしさが爽快だ。が、ここから涸沢までは500m以上登ることになる。ウエ！

この辺りから下山してくる登山者との行き違いがやたら多くなる。昨日の情報では紅葉の最盛期は数日前だったとのことだが、素晴らしい眺望を堪能してきましたか？ それなりに傾斜は増したものの毎週のように山を歩いている我がパーティはいつもより重荷なのだが、つらさなどは感じていないようだ。



ひっきりなしの行き違いをしながら高度を上げて行くと、木々の高さは徐々に低くなり、ダケカンバやナナカマドが多くなり辺りは黄・朱に染まる世界に入っていくようだ。徐々に視界も広がってくるが、周囲も見える山肌も増々鮮やかな黄～朱の世界が濃くなっていき別次元の世界に立ち入っていく様だ。そんな具合で涸沢の直下の急な登りに感じる嫌さもなく涸沢ヒュッテに。



そのままテント場に移動、石ころだらけと言うか全てが岩場のテント場だが適当な張り場を物色して2泊の宿

を設営した。

張り終わる頃から頭上は雲に覆われて来る、予報通り午後から青空は閉ざされそう。1時過ぎに後続の2名も合流して、全部で5張の設営も完了した。

写真やTVで見るのとは違う、その雄大で美しい秋の涸沢の中にいる嬉しさも味わいながら、いつもの小屋泊と同じ様にささやか宴会？やツアーで来た会員との親交などであっという間に時間が流れていく。



夕食の頃からはやはり雨が落ちてくる、仕方なくそれぞれのハウス？に引き上げて夕食を済ます。時々風も吹くようになり今夜は気持ちよく寝られるだろうか？

夜も更けてくると雨・風共にやや強くなり、時々テントもおおられ頭や体にテントが貼り付いてくこともある。この天候で各テントでは旨く寝られているだろうか？と心配もするが自分のテントがバタバタと揺すられることの方が気になってしまう。そんな中でも浅めの眠りを繰り返しながら朝を待つことにzzz...

10/3 明るさが戻って来ても、時折テントを叩く雨音やおおる風はそのまの状態のようである、涸沢の稜線は勿論遠望は白く閉ざされてままだ。で、北穂行は保留というかすっかり諦めてしばらく

様子を見ることにする。テント泊での停滞って何時以来だろう？（日航機事故の前～当日での北岳山荘のテント場以来かな）



そのうち涸沢内トレイルをすることになって、雨具を着込んでザイテングラードからのパノラマコースを歩く、奥穂に続く



登りを行くが、所々に現れる鮮やかなナナカマドを癒される。展望岩でテント村の俯瞰と煙って

はいるものの秋の涸沢を眺めながら歩く。涸沢小屋からザイテンに向かう道まで登り、涸沢小屋に下る。小屋でしばらく午前中の宴会で盛り上がり、テントに戻って昼食に。



午後になっても雨は止まず、思い思いにテントでおしゃべり、飲み会で時間

も流れていく。夕方になって風は収まるが時々思い出したように小雨が降る。

夕食も終わって二日目も寝る時間も近づく頃に天気も回復模様となりこれも予報通り明日は陽射しも戻りそう。

今夜はテントを打つパラパラ・バタバタの音もなく穏やかに眠られそう。

10/4 夜半からは黒い山陰に沿って星空が広がる。それだけに明け方は昨日より



冷え込んだ。5時過ぎには朝食も済ませてから撤収準備にかかる。

6時前に突然穂高の稜線が黄金色に光り出し、涸沢のモルゲンロートになった。

テン場も小屋のテラスも全員が穂高の

稜線を見上げている。紅葉+朝陽のゴールデンカラーは稜線から徐々に下がり、前穂北尾根に薄く流れるガスなどもアクセントとなり、涸沢秋の日の出の美しさを楽しんだ。延々歩いて今此処にいる人だけの特権である。



7時にテント場を後に下山予定のパノラマコースに向かう。



トップは岩慣れたS氏にお願いした。直ぐに狭いトラバースルートになり、色とりどり秋色の道から

涸沢を見下ろすようになる。やがて小さいが岩場が連続するよになり濡れている所も多いので慎重に進む。短いものの岩の急登下降を繰り返すが、木々の彩りにも助けられて順調に進む。前方には常念の山稜も少しずつ近づきやがて槍ヶ岳の穂先も見え始める。涸沢も遥かに俯瞰するようになって、屏風ノ頭から続く尾根に登り着く。眼下に梓川も見える。やせ気味の尾根を進んで屏風ノコルに、ザックを



デポして屏風ノ耳に向かう。急な登りを行き、這松と積岩を越して耳に



到着、正面には涸沢を取り巻く穂高の峰々、槍ヶ岳に連なる山稜、反対側には常念山脈の連



なりととにかくスケール感を伴った日本の絶景である。それが遠望ではなく間近に広がっているだ、真に日本の山岳美の極致ではないかと思われるものだ。しかも季節は秋である。

存分に眺めを楽しみ、カメラ・脳裏に記憶してコルまで戻る。

再び思いザックを感じながら下山を再開、所々にロープが張られた岩場の下降など岩が目立つ道が続く、二ヶ月ほどしか通行できないこのルートは道型ははっきりしているが一般道に比べ荒れ気味ではある。その割にはツアー登山も含めて、行き違うパーティは多い。確かに秋の人気ルートであり、誰しもピンポイントを狙って歩くので仕方がないが狭い登山道の行き違いは要注意だろう。

また我々は下りだが、ガレを含む急な岩の下りなので登りの方が安全だろう。



ツアーなどは殆ど登りで使っていることが多いが、屏風のコルから涸沢までは下りの岩場が多くなるので、それはそれで厄介な道だが。奥又白への道の沢からは傾斜も緩くなって道も広がり歩き易くなる

やがて治山路になって新村橋で梓川を渡って上高地への道になる。

徳沢で昼食を摂って、上高地BTへスタコラ歩き、沢渡で一風呂浴びて、列車・クルマと別れて帰路になった。

秋の涸沢のテント泊・・・で三年目で何とか実施でき、参加いただいた皆様に感謝です。今年の紅葉はやや早いとのことですが、十分に涸沢の秋色・秋模様を堪能でき、更に屏風ノ耳からの遮るものがない大展望もあって、北穂は残念だったが、また次回訪れる理由ができたかも知れないな、と思っている。

(記&写真・涌井 良明)